



一貫コース通信

「今年の夢」

以前、3年間ほど句会に参加していたことがある。生徒諸君は「句会」と言われても想像がつかないかもしれないので、まずはその話からしておきたい。句会にも様々な方法があるようだが、私が参加していたものは、メンバーが各々3句の俳句を作って持ち寄り、作者が分からない状態で自身が気に入った句に票を入れ、最後に指導者の評をいただくというものである。メンバーも仕事が忙しかったので、月に1度ほどの開催であったが、技巧的な句が多く、毎回楽しみにしていたものである。

ある時、一晩徹夜で句会を開催しようということになり、県内の某所へ出かけた。特別な場には特別な催しが付きものである。その晩は、最も票が入った人から、指導者の方が作った句をいただけるというプレゼント付きであった。我々の句会の指導者は、高校の国語の教員を定年退職した方で、句集も出されたことがあり、我々からはいつも「先生」と呼ばれていた。その「先生」が作った句をいただけるということもあり、色紙に書かれて並べられた先生の句を吟味しながら、メンバー一同大いに張り切ったことが思い出される。生徒諸君からしてみれば、大の大人が集まってこんなことをしていると滑稽に思えるかもしれないが、大人になってからの趣味というのはこんなものである。

さて、この時私が目を付けた先生の句は、「生徒より今年の夢をもらひけり」というものであった。長年高校の教員を勤めてこられた先生の一瞬の思いが詰め込まれたような句であり、同業であった私もこの句に魅了された。この日の句会で、私は無事にこの句が書かれた色紙をいただき、今も私の部屋に置いている。

教員は往々にして、生徒に「夢」を持つことを求めることがある。それが生徒の成長につながるかと考えているためである。一方で先生の句に出会ったとき、私自身も教員として、生徒から「夢」をもらっていることに気づかされた。生徒から、「〇〇大学に絶対に合格したい」、「世界史で〇〇点取りたい」などという話をされると、それを実現させることが私の「今年の夢」となっていく。人間は夢を追いかけて頑張っている時の姿が最も美しい。そう考えれば、教育というものは、教員・生徒ともに「夢」を追いかけるという行為なのかもしれない。先生の句に出会ってから、そのように考えている。

「生徒より今年の夢をもらひけり」— 季語は「今年の夢」、季節は新年である。先生は数年前に他界されたが、先生の作られた句はまだまだ現役で輝いている。今年も様々なことがあったが、早くも年の瀬である。来年は生徒からどのような「夢」をもらうことになるのだろうか。今から楽しみである。

